

1. 単元名 球技 ゴール型 サッカー

2. 単元の目標

- (1) 基本的ボール操作であるパス、コントロール、シュートの習得とその名称や行い方を理解し、仲間と連携して空間へ走り込んだりパスを出したりすることができる。
(知識及び技能)
- (2) 空間に走り込んだりパスを出したりするうえでの課題について仲間と話し合ったり、ボールを持たないときのよりよい動き方について工夫したりすることができる。
(思考力・判断力・表現力等)
- (3) チームの課題解決に向けた話し合いに積極的に参加したり、ゲームの中で意欲的に声を掛け合ったりしながら学習に取り組もうとしている。
(学びに向かう力，人間性等)

3. 単元の評価基準

運動や健康・安全への関心・意欲・態度	作戦などの話し合いで積極的に参加したり、試合中に仲間に声掛けをしたりしている。
運動や健康・安全についての思考・判断	自己やチームの課題を見付け、その課題について話し合いの場で発言したり学習カードに自分の言葉で書いたりしている。
運動の技能	味方や相手の状況に応じて、空間にいる味方にパスを出したり、パスを受けるために空間に走り込んだりしている。
運動や健康・安全についての知識・理解	基本技能の名称や行い方を理解し、その言葉を用いて話し合いや学習カードに自分の言葉で話したり書いたりしている。

4. 学習計画（7時間計画）

★本単元での授業における資質・能力の発揮につながる姿とそのための手立て

学習活動（時数）	目指す生徒の姿（観点）	教師の手立て
1. 種目特性を知り、試しのゲームを行う。 (1)	・意欲的にゲームやウォーミングアップに取り組もうとしている。 (関・意・態)	・基本技能を身に付けやすくするために、毎時間行うウォーミングアップを工夫する。
2. 基本技能の名称や行い方を知る。 (2)	・基本技能の名称や行い方について、話したり記述したりしている。 (知・理)	・正確に理解できるように、図示したり、示範したりしながら説明する。
3. タスクゲームを通して、パスの受け手と出し手が空間についての共通理解が図れるよう練習を行う。 (本時) (2/3)	・空間についての考え方を理解し、空間でパスを受けるためのポイントを話したり記述したりしている。 (知・理) ★空間でパスを受けるための自己の課題を的確に把握し、話したり記述したりしている。 (思・判)	・パスを空間で受けることができているのかを確認するため、タスクゲームの中で空間への動き出しが何回くらい見られたのかを、分析チームにデータを記録させる。 ★空間の概念を再考させ、空間でボールを受けることを意識させるために、パスを出す人が余裕をもてるタスクゲーム

	★タスクゲームを通して空間でパスを受けるための自チームの課題を的確に把握し、伝え合ったり記述したりしている。 (思・判)	を設定する。 ★個人の課題を明確にし、そこから自チームの課題を見いだせるよう、試合のデータを記録させる。
4. ゲームを行う。 (1)	・パスを受けるために相手に邪魔されない空間に動き出し、正確なボールコントロールでパスを出したり受けたりしている。 (技能)	★声を掛け合うことで空間を有効活用し仲間と連携できているかをチーム内で確認をし、毎試合後に振り返る時間を設定する。

5. 本時の指導

(1) 目 標

空間に走り込んだりパスを出したりするための自己の課題に気づき、チームで話し合ったり学習カードに記述したりすることができる。

(2) 展 開

学習活動【学習形態】	目指す生徒の姿	教師の手立て
1. 準備運動・ウォーミングアップをする。 【一斉】	・正確なパスやコントロールを意識するとともに、パスの受け方を互いに声を掛け合いながら確認している。	・前時までのポイントの理解を深めさせるために、グループ内で声を掛け合いながら練習を行わせる。
課題 空間でパスを受けるためには？		
2. タスクゲームを行う。 【一斉】	・前時で学んだフリーマンの効果的な活用方法をもとにパスを丁寧に繋ごうとしている。	★課題を意識したゲームにするために、前時に分析した空間への動き出しについてのチームデータをチーム内で共有させる。
3. パス練習を行う。 【チーム】	・スペースでパスを受けるために、受け手が意思表示をし、出し手がタイミングを合わせてパスをしようとしている。	・スペースでパスを受ける意識を持たせるため、マーカーでパスの受け場所の目安を作る。
4. タスクゲームを行う。 【一斉】	・パス練習で学んだ知識をもとに、タスクゲームの中で空間でパスを受けるために必要な声を掛け合おうとしている。	★ポイントを視覚からイメージさせるためにゲーム間で、空間を上手に使用した場面を模範として紹介する。
<重点を置いた保健体育科の資質・能力を発揮している姿> ★ゲームの場面で、以下のような姿が見られる。 ・味方と相手の状況を把握して、パスの出し手と受け手が声を掛け合うことで意思疎通を図り、空間に走りこんだタイミングでパスを出したり受けたりしようとしている。 ・空間でボールを受けるための自己の課題について発言したり書き出したりしている。		

5. 振り返りをする。 【グループ→個】	・空間でパスを受けるために必要な要素やそれに対する自己の課題を伝え合ったり学習カードに記述したりしている。 (思・判)	・自己の課題についての的確に学習カードに記入できるよう、前時に学習した、空間でボールを受けるポイントを再度確認する。
-------------------------	--	--

(3) 評価とその方法

空間にパスを出したり空間でパスを受けたりするための自己の課題を見つけているかを、学習活動2, 3, 4での生徒の発言内容や学習活動5の学習カードの記述内容から評価する。

6. 授業を終えて

実践を通しての成果(○)と課題(▲)は以下の通りである。

○保健体育科として、年間を通し、単元同士を結び付けられるよう計画を工夫してきたが、本単元は同じゴール型球技として、ハンドボールとの関連を意識して設定した。特にゴール型球技では欠かすことのできない空間(スペース)の概念を理解させることに重点を置いた。空間に対する理解を深めるために、思考しながらプレーできるようなタスクゲームを設定し、空間を狙って走りこんだりパスを出したりすることができるように工夫した。結果、足でボールを扱う難しさもあり、サッカーでは技能として発揮するところまではいかない生徒も多く見られたが、空間をどのように活用すれば効果的な攻撃ができるかを工夫する思考力が養われ、その後のハンドボールの授業では更に「空間を作る動き」にまで思考を発展させることができた。具体的な姿として、「スペース」という言葉が自然とゲームの中でも聞かれるようになり、お互い共通認識の中で話し合いや声掛けをしている様子が見ええた。ゴール型に必要な知識について生徒の理解が深まったからこそ、自信をもって声にすることに繋がったのではないかと考える。

○球技では個人技能と集団技能の両方が必要となる。集団技能を習得するためには、個人技能の下地が必要となる。個人技能がなかなか習得できなくとも集団技能の向上が実感できるようにするために、個人技能をカバーするようなタスクゲームを工夫した。具体的には、コート周りのフリーマンが手を使用して良いこととし、スペースへ正確なパスを出すことができるようにした。そのことより、足でのボール操作が苦手であっても空間を効果的に活用するポイントを理解できているフリーマンは、タイミングや角度を理解してパスを出すことができていた。また、そうしてチームに貢献できることで、積極的にゲームへ参加しようとする意欲の向上にも繋がっていた。

人がたくさんいるところだとボールを取られてしまうので、人が少ないところを見つけてパスすることを意識した。パスをもらおうと走った人とタイミングが合った時にチャンスが広がる。
(学習カード 生徒の振り返りより)

▲学年が進むにあたり技能の習得に対しつまづきを感じる生徒がいる。本単元のサッカーにおいても、サッカーの特性である足を使った基本的な個人技能の向上においてあまり達成感をもたせることができなかった。

せっかくスペースでボールを受けてシュートを打てたのにボールが真っ直ぐ蹴れなかった。足で蹴るパスももっと正確にできればチャンスが多くできると思うのでポイントを意識したい。
(学習カード 生徒の振り返りより)

原因の1つとして、アップ時に足を使用した簡単なドリル練習を行ったものの、その際もやはり相手のいないスペースを考えさせてしまうことがメインとなってしまう、ボールコントロールの技能面に関して理解を深められなかったことなどが考えられる。生徒がゲームを通して感じた、求める技能レベルを達成させるためには、多くのボールタッチ数と基本技能の知識が大切であり、学習活動の見直しや時間の確保を行っていきたい。